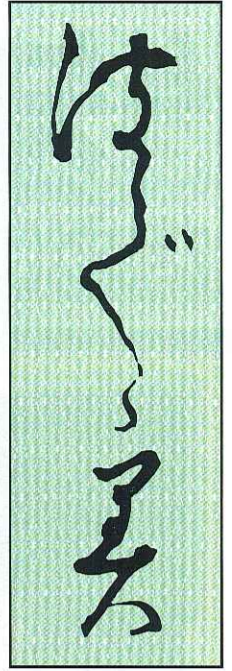


大分県PTA



発行所 大分市下郡字長谷496の38 大分県教育会館2F 大分県PTA連合会 ☎(097)556-9055 責任者 藤田 千克由 印刷所 大分市下郡3154の22 九州出版印刷



期待されるPTAの力

ネットワークを生かして 子育て 自分育てを



全体会で祝辞を述べる広瀬勝貞大分県知事／(右上)各地より集まった参加者



28日の別府市ビーコンプラザでの全体会は、大分市の小学生によるバンド「ウインドアンサンブル荷揚」のアトラクションで幕を開けた。

九州は一つ

手を携えて育てよう
「地域の宝」が光り輝くために
子どもが輝く
PTA活動を目標に

社団法人日本PTA第52回九州ブロックPTA研究大会大分大会が10月27日(土)28日(日)の両日、大分市と別府市の10会場で開催された。九州各県より約8500名が参加し、熱い議論を交わした。

まず、主催者を代表して、藤田千克由大分県PTA連合会長が九州ブロックPTA協議会長としてあいさつした。



主催者代表の藤田会長

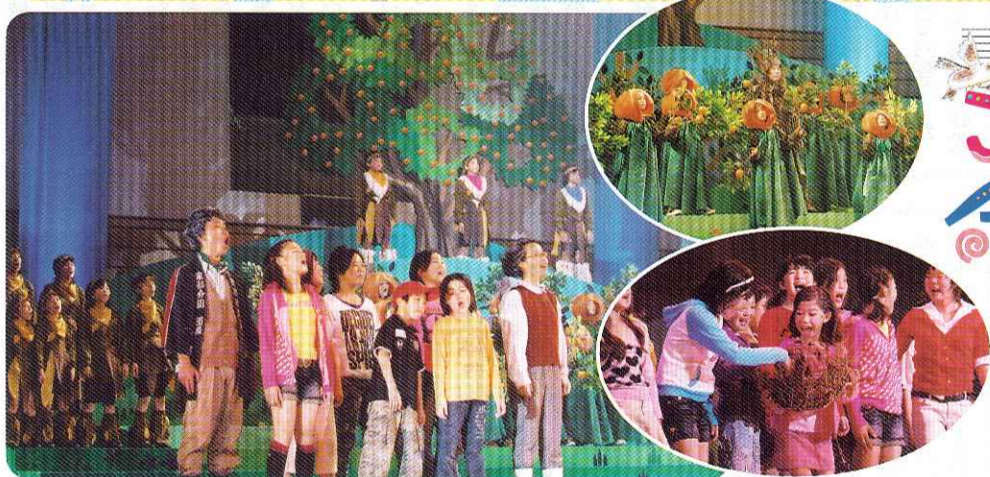
「九州は一つ」の志のもと、会員の皆様と共に語り合い、学んだ本研究会の成果を持ち帰り、明日からの子育てやPTA活動のエネルギーとしてほしい。PTAの原点回帰を常に意識し、自信と夢と希望にあふれた子どもたちに育てよう」と述べた。また、赤田英博(社)日本PTA全国協議会長と小矢文則大分県教育委員会教育長があいさつした。

「協育」のネットワークを

次に、多くの来賓を代表し

「九州は一つ」の志のもと、会員の皆様と共に語り合い、学んだ本研究会の成果を持ち帰り、明日からの子育てやPTA活動のエネルギーとしてほしい。PTAの原点回帰を常に意識し、自信と夢と希望にあふれた子どもたちに育てよう」と述べた。また、赤田英博(社)日本PTA全国協議会長と小矢文則大分県教育委員会教育長があいさつした。

あふれるパワー きらめく笑顔 感動の舞台



記念行事は、大分の子どもたち出演のミュージカル。小学校3年生から高校生まで72人の舞台は深い感動を与えた。

行動するPTAを 目指して

次に、大会宣言が読み上げられ、「しつけと心の絆を大切に、愛情あふれる家庭づくりに努める」「家庭・学校・地域のネットワークづくりを推進し社会環境の浄化と改善に努める」など5項目の決議が採択された。

また、開催地への感謝状が赤田日P会長より藤田県P連会長に贈られた。開催地を代

10年に1度の大会での開催。多くの人たちに支えられ作り上げられたこの研究大会が活動を見直す機会となり、PTA会員同士の繋がりを深め、大きな実を結んだ2日間となった。

「こころの星」は、大分市在住の日隈尚美さんの原作に杉田静生氏が総合プロデュースをして生まれた、大分県産のミュージカル。過疎化する地域の中で、トビと人々の触れ合いを通じての希望、夢があるから力がわく。「生きる」ということをキーワードに、人々に支えられ、子どもたちが自然の中で大きく育っていくことを願って作られた。

研心北

「箸は執らば天地御代の御恵み父母との御恩忘るな。いただきます」。いつ頃刷り込まれたか、70才の今でも食事前暗唱する。漢字や意味を知ったのはずっと後である。家庭の役割などを強調。食育白書(大分合同新聞・10/30夕刊より)「食」を通じて人間形成を図るため、あいさつの習慣化など家庭での食育の役割を強調。食事の際「いただきます」を「いつもする」中学生は44.9%、小学生は63.2%との調査結果を紹介。その上で「保護者自らも食」についての意識を高め、健全な食生活に努めることが重要と親の意識向上の必要性を指摘した」とあった。▼食事中の所作には、人間形成上、多くの学習場面がある。箸は人として最初に使う道具。この時に、正しい持ち方を会(体)得させれば、執筆も正しくでき、正しい文字が書ける。そこには自然と美しい姿の食事や学習姿勢が生まれる。▼飽食の時代といわれる。その反面、日本の食糧自給率は約40%とか。残り60%は他国にのみである。限りある物を大切にみるしかない。ファミレスで食べ残して平気、それがリッチとばかりに立ち去る。▼衣食足りて礼節を知る」というが、足り過ぎて忘れた世になった。「武士は食わねど高揚枝」の気概は何処へ。こんな空威張りやウンはまだいい。昨今のエライ方々や団体のウンは如何なものか。▼食字は人が良くなる。食事は人が良くなる。食育とは人が良くなる行事である。会食する互いが人となるチャンスである。そのためには、食前後のあいさつの徹底である。簡単なようでもつかしいが私たちにできる食育上の重要不可欠の第一歩である。

“知”の宝庫 ためにできること

(社)日本PTA第52回九州ブロックPTA研究大会大分大会初日、大分市・別府市の10会場で分科会が開催された。子どもたちを取り巻く社会情勢の変化にとともに、大人の責任が大きくクローズアップされている。未来を担う子どもたちのために、親として何ができるのか、子どもを守り、成長をはぐくむPTA活動のあり方について熱心な討議が繰り広げられた。



ポジティブな意見が多く出た討議



「2校の発表の後、主に提示された3者のコーディネーターは誰がするのか?」をパネリストと会場の参加者で討議がなされた。(以下、意見の抜粋)

- 「PTAは卒業しても次は地域で頑張る！」**
- A 「コーディネーターの育成こそが行政の取り組みではないのか」
 - B 「コーディネーターはやはりPTA会長だろ。そのためには、ジュニアリーダーの養成が必要ではないか」
 - C 「市町村合併をした時に協育ネットワークのシステムを導入するよ」
 - D 「教師を加盟して、立場を変えてコーディネーター役に立ってもらえれば?」
 - E 「学校の専門部への取り込みは無理。賛同は得にくい。執行部が中心となり地域へ乗り込まなければ」
 - F 「この取り組みに行政は補助金をあてることできるのか」
 - G 「どうしてコーディネーターにPTAがいいのか」
 - H 「PTAが終わったからその経験を生かして地域で活躍してほしい。これが大切」

特別分科会(大分文化会館) シンポジウム 討議 「地域の宝」の輝きを求めて

コーディネーターを山崎清男大分大学教育福祉科学部教授が務め、大分県から2校がパネリストとして参加した。

はじめに、中川忠宣大分県教育庁生涯学習課社会教育監から「家庭・学校・地域の3者による総合的に機能する『協育』ネットワークシステムを構築したい。その中でPTAは、3者に働きかけができる唯一の組織であり『協育』の要としての大きな役割が期待される。以前、県P連からの研究

指定を受けた土壌や小規模校の特質等が関連していることを伺わせた。

児玉隆志津久見市立第一中P会長は「18年度に県より指定を受け『地域の宝育成事業』に取り組んだ。その中のふれあいグリーン作戦は、2回目からはゴミの量が半減した。今年度さらに新たな広がりをもって継続した。来年度は校区の枠を出て全市の小中学校へ活動を広めたい。今後はこの活動を広げたい。他にも工夫を重ね幼・小・中・高と連携を強め、地域との繋がりを深めたい」と成果報告を交えて発表した。



和やかなコーヒータイム

切ではないか。そうすればPTAと地域は繋がっていく。活動も継続できる」

I 「誰がコーディネーターになるというのでなく、行政に教えるを仰ぎながら自らやるべきだ」と熱い議論等々。熱い議論は参加者の気持ちをしっかりと掴んでいた。

ネットワークづくりは 真に町づくり

コーディネーターの山崎氏が最後に「協育」ネットワークづくりは生涯学習である。過去の良い所、日本の良い所を子どもに伝えるために3者が考えていくことが大切だ。PTAを卒業しても地域と関わりながら一市民・一住民・一大人としてシステムづくりをやしてほしい。それが町づくりにも繋がる」とまとめた。

第2分科会(フィルハーモニアホール) 家庭教育

「家庭教育の原点回復と地域連携を図るPTA活動」を討議題に2校が発表した。福岡県三潁郡・大浦小Pは、家族ぐるみで取り組んだ「新家庭教育宣言」について提言。

「手伝いや起床就寝時間など習慣化したい目標を親子で話し合ひ決めた。その結果、家庭内のコミュニケーションが充実した。親の不規則な生活スタイルに影響を受けていた子どもの生活習慣にも改善の兆しが見られた」と発表した。

福岡県北九州市・沖田中Pは、地域との関わりの中で心豊かな子どもを育てる活動について提言。

子どもの意識で 子どもは変わる

助言者は「価値観の多様化や規範意識の低下によって、今の世の中これだけのかという思いが強い。今こそ保護者の意識を変えてほしい。自分を磨き、親としての資質の向上に努めることが大切だ」。私たちは子育てや日常の生活を通じて生涯に渡り自分育てを行っている。そんな親の後姿を子どもたちは常に見ている。私たち親は模範となるべく基本的な生活習慣やマナーなど今一度見つめ直すことが必要だ」と述べた。

第1分科会(エコーグラシアタ) 組織・運営

「時代の変化に敏感なPTAの組織・運営」を討議題に2校が発表した。

鹿兒島県鹿兒島市・福平小Pは「地域との関わり合いとしては、安全サポーター制度やスクールゾーン委員会を実施し、3つの観点から取り組んでいる。教育講演会「共助」「自助」「公助」から取り組んでいる。教育講演会「共助」の集い、本年度は狂言鑑賞会を実施し本物の芸術活動にふれる機会を作っている。役員選出方法として自薦他薦問わず、無記名の用紙封筒を全家庭に配布し11月から選挙委員を配置している。あわせて全児童分の役員登録カードを作成し、どの会員も6年間2〜3回以上経験できるようにしている」と発表した。

佐賀県神埼郡・三田川中Pは「組織の見直しを行い、地区の生徒数に応じて委員を増やした。専門部の活動においてもマニュアル作りを行っている。その上で毎年1つ新しい活動を各部で考え『プラスワン活動』として実践している。子どもたちに、校区内の全国トップクラスの神埼清明高校の男子新体操部を一度は見てもらいたい」との思いから今年招聘をした。吉野ヶ里町の炎まつりも生徒たちが演じ一層盛りあげている」と発表した。

子どもたちの 未来のために

討議では「クラス役員を前年度に決めて重複することはないのか」「参加したくない父母の対応は」などの質問が出されたり、各県ごとの「おやじの会」の実践報告などがあり活発な意見交換が行われた。

助言者は「コーディネーターとしての役割をPTAが担っている。具体的な組織運営がなされ、データ化するにより、きめ細かさ、工夫改善がみられる」「プラスワン活動、新体操、ボランティアなど本物にふれる体験をさせることが大切。最後は、子どもに夢をたくすしかない。だから一人支えてくれたら活性化すると述べた。



意見交換の場は 光輝く子どもたちの可能性の



提言者による人権劇



活動のヒントを求めて



あいさつする富永大輔大分市P連会長



各県からぞくぞくと……

第3分科会(三ツ音の泉ホール) 学習活動

「子どもとともに成長するPTA活動の在り方」について2校が提言発表した。福岡県福岡市・住吉中父母教師会は「ノーメディア運動」について提言。メディア(テレビ・ゲーム・パソコン・携帯電話)に振り回される子どもが増えている今、上手なつきあい方を親子で考え、家庭の教育力向上を目指す。

「週一回ノーメディアデーを決め、その時間に読書、家族で会話をしようと呼びかけた。活動の押しつけでなく、親子のよい関係づくりがねらい」と発表。

沖縄県石垣市・登野城小Pは、地域の中で果たすP

「ゲームのしすぎが脳に与える影響を教えよう」「安全のために持たせたのに部屋でメールをして困る」「携帯電話を買う前にルールを決めておくべき」など出され、生活にメディアの占める割合増加を反映した。

地域連携について「地域の方に感謝の気持ちを示すことが大事」「いかに新しい住人をP活動に引き入れるか」など共通の悩みを抱える参加者からの発言が相次いだ。

助言者は「メディアの功罪をよく知って子どもと話し合い、危険な面も教えておくことが必要」「地域を活用し、ともに行動し、貢献する中こそ子どもの成長がある」とまとめた。

共通の課題解決に向け、収穫の多い会となった。

第5分科会(平和市民公園 能楽堂) 人権尊重の教育

「自他の尊重を育むPTAの諸活動」を討議題に2校が発表した。

福岡県北九州市・湯川小Pは「親と子と先生がコミュニケーションをとること、いじめやトラブルも少しずつ解消できると考え、「親子でチャレンジ」に取り組んだ。親子の約束を決め、家族で達成させることで、親子で向き合う機会をつくり基本的生活リズムの向上を図った。チャレンジを定着・発展させ、コミュニケーションがとれる活動をしたい」と発表した。

沖縄県那覇市・寄宮中Pは「劇を通して子どもたちにいじめについて考えさせ、

人権感覚を身につけさせよう」と、先生と保護者が一体となって取り組んだ。言葉でなく視覚に訴えることで、より深く伝えることができたと発表した。実際に内容を観てもらおうと、提言者他2名で劇を上演。ユーモラスな動きに会場の雰囲気も和んだ。

日常生活の中で人権感覚を

討議に入り、コミュニケーションをとるための方法として「何かをして思いを共有する(学校でトイレ磨き、部活の応援、学校を遊びの場にして1日遊ぶ、連風呂など)」「地域の人と

第4分科会(大分県教育会館) 健全育成と地域活動

「教育環境の整備と地域活動への参加を図るPTA活動」を討議題に2校が発表した。

長崎県長崎市・伊良林小Pは、安全・安心づくりについて地域ぐるみの安全管理体制の整備に向けた活動内容を提言。

保護者と地域と学校が連携し「子どもを守るネットワーク委員会」を設け、子どもたちを見守る「mamoru-net」を立ち上げた。「保護者・地域・先生と色分けしたホルダー(登録者カード)を身につけることで、子どもたちも地域内で安心してあそびたい機会が増えた。今後は子ども

からは多くの実践例とともに自治会・子ども会離れという共通した課題もあがった。

あいさつから始まる交流

助言者は「学校・家庭・地域を結ぶにはあいさつ、声かけが大切。コミュニケーション不足解消が安全・安心な環境づくりに繋がる」「地域や学校の行事を時系列に並べると参加しやすい活動が見えてくる」「地域活動では親子で集めて親子を離すことがコツ」「PTA活動は「せねばならない」という人が核となり「やってもいい」という人を巻き込んでいこう。地域には潜在的資源(人材)があり、大いに活用していくことだ」とまとめた。

第6分科会(トキハ会館) 健康安全

「生活リズムや食」の充実を図り、健全な心身を育むPTA活動」を討議題に2校が発表した。

宮崎県児湯郡・都農南小Pは「健康な生活は食事が基本であると考え、食に関する様々な活動に取り組んでいる。今年度で9回目の稲作体験学習では、稲作実習委員会を組織し、学校だけではできない田や農作業用機械などの管理をJA青年部とともにサポート。おやじ学級もかし作りを主催した。糊まきから田植え・稲刈り・脱穀の体験をすることで作業の苦勞や収穫の喜びを味わい、食を大切にすることができた」と報告した。

鹿児島県豊後市・財部南中Pは「会員数32戸と小規模校の良さを生かし、学校が行う農園活動を地域と一緒になってバックアップしている。5アールほどの学校農園で夏野菜・そば・さつまいもを栽培。生徒が自分たちで収穫した夏野菜を使っての親子料理教室やそば打ち体験学習などを通して、親子が食について学ぶことができ学校・家庭・地域の絆がさらに深まった。また学校教育の農園活動とPTA活動としての食の取り組みをリンクさせることで内容の充実を図ることができた」と報告した。

討議に入り、食育の推進では地域との関わり方や市町村合併に伴う経費削減の問題が出された。また食のリズムを回復するにはどうしたらよいかなどの話し合いがなされた。

親から働きかけよう

助言者は「両校の食育の取り組みは、学校の教育活動とうまくマッチしており、地域との繋がりが強く、かなり進んでいる。これから食育に取り組みきたいPTAは、まず教育活動の中で一緒にやってみるものはないか、学校に問いかけてみる必要がある。次に食育についての組織を作ること。そして何よりも継続していくことだ」と結んだ。

原点に立ち返ろう!!

共通理解をさぐり協育を



各校の広報紙を前に歓談



熱気あふれる会場



おいしいコーヒーでリフレッシュ



会場からも活発な意見がだされた

第7分科会(コンパルホール) 広報活動

「PTA活動をリードし地域とのネットワークとなる広報活動」を議題に2校が発表した。

熊本県上益城郡・木倉小 Pは「地域の子は地域で育てる」が根付いた活動を行っている。地域との連携強化に取り組んだ「学校と地域との架け橋事業」のひとつである広報活動は、何を知らたいか、校内での子どもたちの様子を伝えたいの思いで事前にアンケート調査し、データに基づき編集、記事づくりに活かしている。行事がある時は、当日に備え、事前発表をするなど、タイムリーな情報提供を心掛けている。昨年度

福岡県田川市・金川中 Pは「家庭教育委員会が広報活動の役割を担い、金川校区独自の活動として『子育てハンドブック』がある。子育てについてなんとかしたいの思いでつくられたものである。十数年にわたる連携を深めながら取り組み、保・小・中そして地域の連携を深めながら取り組みを続けてきた活動は地域ネットワークづくりにもなっている。P・学校・地域と一体的な活動は望ま

い。子どもを中心に考え、親子で楽しめるイベントを行うなど工夫も大切。地域との連携を深めながら行う活動は、活発な広報活動へと結びつく」と発表した。

広報活動は 学校・地域の情報発信源

討議では、理想的な環境に甘えず、努力ははぐくんできた2校への賞賛や、広報の本質的なあり方、部員の志気の問題など参考になるものが多く、広報活動に留まらず、多数の意見や質問が寄せられた。

助言者は「広報紙は子育てなどテーマをしっかりとさせ記事にしていけること、楽しみながら広報活動をしてほしい」「地域と繋がりが学校・地域の情報の発信源であってほしい」とまとめた。

第9分科会(大分県農業会館) 教育問題(中)

子どもの 生きる力を高める

「生き方や在り方をもとに学ぶPTA活動」を議題に2校が発表した。

熊本県熊本市・二岡中親師会は、キャリア教育4つの力(人間関係形成・将来設計・情報活用・意思決定の各能力)を高める取り組みを提言。

一小一中の特色を生かし小学校で土台となる基本的な生活習慣に関する教育が行われたのを受け、中学校では発達段階として、4日間のナイストライ(職場体験活動)などを実施。「自意識を高め、働くことの喜び

を学び取ってもらいたい」と語り「今後も小・中の連携を深めていきたい」と結んだ。

長崎県諫早市・小長井中 Pは、生徒の自己実現を支援することにより、生きる力をはぐくむ活動を提言。

「親子講演会は、親しみを持ってもらうために講師を全国的に活躍している同校出身者に選考している。学校が所有する茶園の草刈り作業では、親子共同作業をすることで親子・各家庭間の絆を深めている。また、校区内の事故を受け、全世帯が参加して交通安全街頭指導を行っている。時代は変わっても懸命に活動

する大人の姿を見せることで子どもが成長していくことを信じて」と語った。

討議では、職場体験の日数や方法、生徒と保護者で行う社会体験学習、参加者を増やすための工夫などの事例報告や意見交換が行われた。特に会場の関心を集めたのは中学生の地域活動への参加方法として、部活単位で参加する「一部一役以上運動」の事例報告であった。

助言者は「キャリア教育を進めて行く上で、家庭・学校・地域の連携は欠かせない。地域の特性を生かして、子どもたちが社会に役立つ人間になるように、そして、生きる誇りを持てるように、関係者が志をひとつにして取り組まなければならない」とまとめた。

第8分科会(大分県立芸術会館) 教育問題(小)

「体験的な活動を通して、豊かな心を育てるPTA活動」を議題に2校が発表した。

福岡県福岡市・博多小 Pは「本校は、福岡市を象徴する行事に恵まれた歴史と伝統のある地域である。ちびっこどんたく隊・子ども山笠・おくんちなどの行事(父母教師会主催として参加している。衣装や人形づくりは総合的な学習と関連させながら、また地域の方からの協力も得ながら活動している。地域の一員としての自覚が培われ、パイプ役としての組織運営のあり方ができてきている。逆に行事の参加への理解が

難しくなり、協力する保護者が限られている課題もある」と発表した。

佐賀県有田町・大山小 Pは「実践活動として、24年間続いている田植え・稲刈り、ストンプマーク補修作業、除草作業などを親子一緒にやっている。また、ミニ門松づくりや大山祭りは地域の方も参加している。子どもたちは自分の手を使っている姿、物に感謝している姿や地域の方に感謝している姿を見せることで学び、成長している。今後は、企業段階から子どもたちを巻き込んで体験活動を考えて

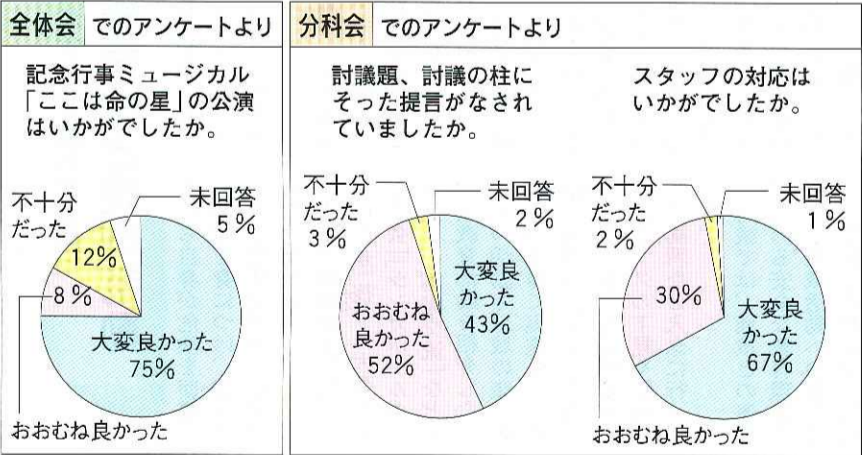
い」と発表した。

討議では通学合宿・縦割り班での米づくりなどの紹介があり「活動の中のどこでどう子どもに考えさせるのかを明確にすることが大切」「子どもが喜んで活動する姿を見れば保護者の参加も増えるのでは」などの意見が出された。

体験活動は 子どもと成長する場

助言者は「共同体験の不足や高齢者、乳幼児とのふれあいが少ない今、体験活動は重要視されている。家庭・学校・地域が協力して行う活動は、親が子どもとともに成長する場、大人が子どもの目線に下がって近づける場である。そのことにより、豊かな心が育つ」とまとめた。

平成19年度 九州ブロックPTA研究大会 大分大会を終えて...



光り輝く子ら育て

2日間の大会が無事終了した。大分県が進める「協育」を基本テーマに、参加者へは「感動とおもてなし」を合い言葉に取り組んだ3年間であった。

その間、県P会員並びに実行委員、そして要員の方々には、大変な御苦労をかけ、今更ながら反省しつつも感謝の念であふれている。

大会後のアンケート結果や本紙が報じるよう、会員の皆様は、感動と満足をお土産に帰路につかれたと思う。

全体会におけるミュージカルは、まさに圧巻であった。出演者のみならず、鑑賞した子どもたちへ自信と勇気と希望のメッセージを確実に届けたに違いない。まさに協育が創りあげた成果といえよう。

大会事務局

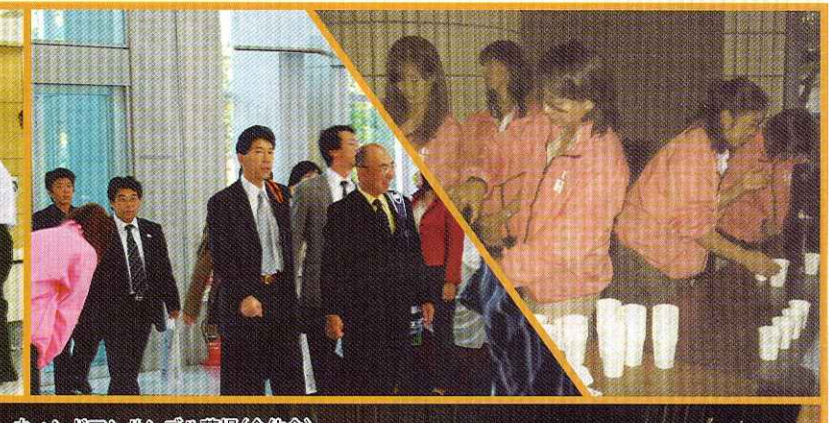
たくさんの人たちに支えられて

～おもてなしの心が成功のかぎ～



自転車も ハンドル握れば ドライバー

清川小学校子ども神楽(レセプション)



ウィンドアンサンブル演奏(全体会)

大会をふりかえって

大会を終えて、大会会長はじめ実行委員長・副委員長に感想を寄せていただきました。



大会会長 藤田 千克由

本当にありがとうございます。お陰様で本大会を成功裏に終えることができました。これも携わったすべての方々の人間力に支えられた結果だと確信するとともに衷心より感謝申し上げます。分科会においては各会場で運営責任者をはじめとするス

タッフの皆さんのホスピタリティ(おもてなしの心)溢れる対応が充実した分科会の内容を引き立てたことだと思います。全体会においてはホスピタリティある対応はもとより進行も予定通りに終了し、ミュージカルで子どもたちの可能性に触れることができました。皆さんにとって本大会は何かだったでしょうか。私にとっては唯一無二の経験であり、そこで得た感謝・感激・感動を持ち続け、幸福感を満ちたし続けることができればと思っています。これはやはり

人がくれるもの、子どもたちがくれるものだと今更ながら認識させていただきました。またPTA会員だけではなく、県内外を問わずたくさんの方の支援に報いるためにも準備8割、本番2割、後拭き4割と言われるようにこれから本大会の正念場だと思ひ、事業の検証、報告、お礼等々、山積みですが本大会に関わった皆様へ可能な限り、感謝・感激・感動が届くように努力してまいりますのでよろしくお祈り申し上げます。ありがとうございます。



大会実行委員長 内林 高徳

九P大会が多くの人たちの手で大成に終わる事が出来たことに大変感謝いたします。2年半前より始まった準備段階では、何をどうすれば良いのだろうと試行錯誤の連続でした。そのためでしょう、



大会実行副委員長 野中 俊秀

一昨年、準備実行委員として九P福岡市大会の視察に参加して以来、大分大会が始まるまでの2年間は本当にいろんなことがあり、長い2年間だったような気がします。大会が始まってからは、26



大会実行副委員長 権藤 和雄

ご参加頂いた皆様から「来て良かった」「感動した」などたくさんの温かい声を聞き、これまでの長い間準備、稽古を支えて頂いた関係者の皆さん共々、感謝の気持ちでいっぱいです。特に当日駐車場係

日的事前打ち合わせ会、レセプション、27日の各分科会、28日の全体会、記念行事、反省会とあつという間に過ぎていったような気がします。大会が大成功に終わることができたのは、実行委員会のメンバーと事務局、大会運営に携わった全ての皆様のおかげと、感謝申し上げます。ありがとうございます。

皆様方に多くのご心配とご迷惑をお掛けした事をこの場をお借りしてお詫びいたします。しかし、そのおかげで多くの人と知り合い、ふれあい、確かめ合い、そして共に感動できたことに大変うれしく思いました。本大会をきっかけに、PTAの和がますます深まることを願います。本当に皆様ありがとうございます。

で汗を流した方から受付や館内の誘導、ステージ進行等々、PTAスタッフ全員のご協力の賜です。記念行事ミュージカルを通じて「子どもたちが変わっていった」のではなく「子どもたちが本来持っている個性や能力を引き出す」ことを学びました。関係各位の皆様へ深く感謝を申し上げます。

参加する学校の規模は大小あるので、提言する2校の規模も分かれているとより参考になると思っています。スタッフの方が笑顔でとても丁寧な対応だった。温かいコーヒー等の心遣いがありがたかった。ピンクのスタッフジャンパーが目印になって(特に車の誘導案内の際)よかった。

プレゼンテーションの資料が大変分かりやすかった(特別分科会) いろいろな意見を聞き、家庭と学校、地域のあり方について改めて考えることができました。

PTA活動は楽しむことが大切だと勉強させられた。保護者として深く考えなければならぬことを知ることができた。今後のPTA活動においても、役立つヒントがたくさんあった。現代の家庭や学校のあり方について学べる内容の深いものだった。

最初から最後まで参考に内容だったのに、休憩後ぐつと人員が減るのは残念だった。大人としてのモラルのなさを感じた。PTA活動に対するやる気が出てくるような分科会だった。

PTA活動は楽しむことが大切だと勉強させられた。保護者として深く考えなければならぬことを知ることができた。今後のPTA活動においても、役立つヒントがたくさんあった。現代の家庭や学校のあり方について学べる内容の深いものだった。

PTA活動への意欲を熱く感じる意見交換がされて大変有意義だった。最初から最後まで参考に内容だったのに、休憩後ぐつと人員が減るのは残念だった。大人としてのモラルのなさを感じた。PTA活動に対するやる気が出てくるような分科会だった。

PTA活動は楽しむことが大切だと勉強させられた。保護者として深く考えなければならぬことを知ることができた。今後のPTA活動においても、役立つヒントがたくさんあった。現代の家庭や学校のあり方について学べる内容の深いものだった。

参加者の声

大会終了後、参加者の皆様からいただいたアンケートより抜粋した内容

300号達成 愛され親しまれる紙面づくりを目指して

300号記念を祝して先生方よりお言葉をいただきました

「先生待っています」原稿メ
切日近くになると必ずかかっ
てくる電話。短い言葉である
が、それでいて歴史という時
間のなかで磨き抜かれた熟成
された言葉であり、書く意欲
を起す不思議な魔力を持つ
た言葉でもあった。この言葉



私を支えた短い言葉

安部 崇夫

(元はぐく美「顧問」
大分県広報教育研究会長)

は11年間ペンを走らせた「力」
の源泉でもあった。
当時編集顧問だった私は、
1面下のコラム「独奏合奏」を
執筆。昭和55年から平成3年
までの11年間107号分を書
いた。
あの頃は年10回発行だった

ので、正直言って大変だった。
今でもあの短い言葉の出会い
をつくってくれた当時の編
集員のみなさんに頭の下がる
思いだ。本当にありがとう。
さて、物があふれ、誰も
が豊かさを楽しんでいるよう
に見える平穏な社会の奥で何

「はぐく美」が300号にも
なりましたか。いやー、よく
ぞ頑張りましたね。
私がPTA広報紙コンク
ールの審査員になって10年以上
になります。広報紙もずい分
進歩してきました。最近ではカ
ラー写真が増えて、しかもパ



「はぐく美」300号に寄せて

帆足 三郎

(大分合同新聞文化センター
代表取締役 社長)

ソコンで仕上げることもあ
ります。
しかし、手作りでソコソコ
と作る広報紙もあって、その
ご苦労には頭が下がります。
手作りの紙面には温かみとぬ
くもりがあつて好きです。
こうした県内のPTA広報

紙の向上にひと役買っている
のが「はぐく美」です。
各学校のPTA広報部員
は「はぐく美」を見習って取
り組んでいます。いわば、「は
ぐく美」が模範となっていま
す。
10月末に2日間にわたって

が崩壊している。その何かに
視点を置き、読者の心に響
く文章を目指した。
そしてコラムは新聞の顔。
新聞は「両刃の剣」。公器を預
る者として責任は重い。こ
の短い言葉も私の頭の中で生
き続けた。
現在の情報化社会の中で、
全会員を結ぶパイプ役として
これからも愛され、親しまれ
世相を映す鏡として、よどみ
なく流れ続けるように「はぐく
美」300号おめでとう。ば
らば。

九州ブロックPTA研究大会
大分大会が開催されました。
私は第7分科会「広報活動」の
助言者として参加。分科会の
熱い討論を目の当たりにして
感動しました。
「はぐく美」でも事前の編集
に力を入れていました。300
0号は、この大会の模様を大
きく掲載することでしょう。
その時に「はぐく美」の編集ス
タッフの一人としてたずさわ
っていたことに誇りを持って、
さらなる活躍を期待します。
300号おめでとう。



日P赤田会長あいさつ

第55回日本PTA全国研究大会 滋賀びわこ大会

滋賀びわこ大会に参加して
母親部長 神 祐子

第55回日本PTA全国研究
大会滋賀びわこ大会が、8月
24日(金)25日(土)、8000名
を超える参加者のもと開催さ
れました。
「さあ、はじめよう！びわ
こから！見つけよう、命と自
然の大切さ」を大会スローガ
ンに掲げ、10分科会で討議が
行われました。
第1分科会「どうする？」

うなる！PTA」では、藤原
和博杉並区立和田中学校長の
基調講演がありました。
便利になったこの「コンピ
ニ化社会」で、今こそ人間同
士のコミュニケーションの必
要性、そして、保護者はもち
ろんのこと、今以上に地域の
方が学校に関わりを持つこと
が重要であると、改めて考え
させられました。
第4分科会では、全国PT
A広報紙コンクルの表彰も
行われ、佐伯小学校育友会の
「城山」が日本教育新聞社賞
に、鶴谷中学校育友会の「育
友会会報鶴谷」が佳作に選ば
れました。

どの分科会も内容の充実し
たすばらしい大会でした。

みかんコーナー
300号スペシャル

反抗期 どう接したらいいの？

ユーモアというかくし味で
乗り切る反抗期

Q 中2の息子と小5の娘の
母親です。息子は親への激し
い反発もなく、気持ちが安定
していいわゆる「よい子」
の面しか出ていません。この
時期の子は「難しい年ころ」
と言われているのにこんなこ
とでいいの不安になります。
最近、このような子ども
が多いというのを聞きました。
私は姉妹の中で育ったせ
いか一層気になっていました。
A 一般的には、思春期にさ
しかかると心理的な自立が始
まり、親からの自立がこの時
期の発達の大きな課題と言わ
れています。「心配の「よい子」
についてですが、家族との良
好人間関係を保っている
ことは、大切なことだと思

ます。
しかし、親から教えられた
価値観から離れ、自立しよう
とするこの時期の子は、も
それに代わって自分を支えて
くれる友だちを選び、その中
で、互いに自立した個人とし
ての違いを認め合いながら生
活できる力を身につけていく
ようになっていきます。友だ
ちと音楽、スポーツ、趣味な
ど身近な話題を交流し合い、
コミュニケーションを通して
自分らしさを確認することが
できるのです。お互いに交流
できる楽しさ、通じあえる喜
び(助け、助けられる・信じ、
信じられるなど)、といった
生きるうえで大切な力を獲得
していきます。

ですから「よい子」に成長し
た思春期の子どもの発達には、
友だちの存在が欠かせません。
しかし、今自分が友だちから
どう見られているかが気にな
って、自分を率直に出すこと
を恐れ、嫌われないように気
を遣った友だち関係があると
いわれています。このような
関係は、大人社会と重なるも
のがあり、日々ストレスを感
じやすい状況といえます。一
層、家族の率直で深い人間関
係が大切といえそうです。

このような夫婦間の思いや
りを目の当たりにした子ども
は、これをモデルに自身の葛
藤やストレスの解消に役立っ
ていけるでしょう。
みんなで考えるコーナー室長
岩尾 淳一

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

三井住友海上

あなたのすべてを守りたい。

- 積立保険
- 自動車保険
- 火災保険
- 海外旅行保険
- ケガの保険
- ヘルパー保険

保険のことなら
三井住友海上代理店まで。

平成19年度 優良PTA功労者表彰
おめでとうございます

文部科学大臣表彰 (以下敬称略)

- (団体) 今津小学校PTA(中津市)
- (団体) 金池小学校ひのみ会(大分市)
- (団体) 日本PTA会長表彰
- (団体) 高田中学校PTA(豊後高田市)
- (団体) 第一中学校PTA(津久見市)
- (個人) 木梨 雅孝(臼杵市)
- (個人) 西村多恵子(別府市)
- (団体) 九州ブロックPTA会長表彰
- (団体) 富来中学校PTA(国東市)
- (団体) 鶴谷中学校育友会(佐伯市)
- (団体) 三重中学校PTA(豊後大野市)
- (団体) 東部中学校育友会(日田市)
- (団体) 明野中学校PTA(大分市)
- (個人) 木梨 雅孝(臼杵市)
- (個人) 西村多恵子(別府市)

大分県社会教育功労者表彰
木梨 雅孝(前県P連副会長)

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。

◆おこわり
「まなざし」「親ごころ」「
村一報」は紙面の都合でお休
みます。
今年度、県P指定研究発表
の豊岡小P、国見中P、春日
町小Pの取り組みは、2月号
で紹介いたします。